

十七文字の抒情詩



風薫る季節です。
緑が美しい山や田植えを終えたばかりの田畑を見ると
日本もまだまだ捨てたものじゃない・・・と思えてきます。
自然を守るために、まだまだ私達に出来る事が
残されているのではないかと・・・とも思います。
美しい日本の残したい景色を、十七文字の中に
詰め込んで、一緒に俳句を楽しみましょう。

ではまず健さんの句から。



水玉の模様に炊けり豆の飯

言われてみると確かに炊飯器を開けた時の豆ご飯は水玉模様・・・
それをそのまま句にされた所は面白いし、発見です。

京の街上ッテ下り梅雨に入る

京都の地名を面白く詠まれています。カタカナ部分が効いていますが、
最後の梅雨に入るはそのままの方がいいかな。

*京の街上ガッテ下り梅雨に入る

初夏の渚に流れ着きしもの

流れついたのは何なのかしら？いろいろと想像できる句ですね。

*初夏や渚に流れ着きしもの

さみどりの色に始まる四葩かな

中七の色に始まるって良い表現ですね。四葩（よひら）って紫陽花の事です。
さみどりから色を変えていく紫陽花。佳句です。

なめくじり天井まではもう少し

なめくじりってなめくじの事です。我が家も先日廊下になめくじがいて大騒動！
なめくじのゆっくりとした動きまで見えてきそうです。
文語体で詠まれるのならなめくじはなめくぢですので

*なめくぢり天井まではもう少し

健さんは全国募集俳句「山の一句」自由題にて佳作入選されたとの事
毎日少しずつ作句された事の成果ですね。おめでとうございます。
これからも良い句を詠んで下さいね。

続いてうさおさんの句です



風寒し五月の空やザードの死

衝撃的な死でしたね。ただ、俳句って年月が経っても読んだ人に理解出来なくてはいけないのです。五月の空って明るいイメージ、そして風寒しが冬の季語です。青嵐という季語があるのでそれを使ってはいかがでしょうか

*まだ若きミュージシャンの死青嵐

桑の木の生い茂るのを切り払い

切り払いていうとちょっと可哀想な気がするので

*生い茂る桑をほどよく剪定す くらいでもよいのでは・・・

老いてなお企業の中で足掻きおり

まだまだ老いて・・・ではありませんよ。
有効な季語を使ってはどうでしょうか

*熟年も足掻く企業や走り梅雨

萌え草に盲目（めしい）の犬と腰かけて

良いですね。盲目というと哀しい感じがしますが、優しいご主人と座るワンちゃんの風を感じている鼻先まで見えるようです。

*萌え草や盲目の犬と席分かつ

砲台の跡を巡りて夏来たり

この句もとても良いです。巡りて・・・が少し気になって、巡ればではどうかな・・・とも思いましたが、やっぱり巡りての方がしっくり来ますね。 *砲台の跡を巡りて夏来る

うさおさんも俳句がんばっていらっしゃいますね。
楽しく詠むというのが一番。そして日々続けられる事が大切です。
次回も投句楽しみにしています。

先日ぶらりと道後、内子へ行って来ました。
落ち着いた町並みは、忙しい毎日に明け暮れている身体に、しっとりとした柔らかな空気を吹き込んでくれるようです。
たまにはぶらり・・・も必要ですね。

職人の居場所半畳梅雨に入る

猫好きの家らし丸き猫ふうりん

ゆうこ